

特集 限りがあるから魅力が生まれる♥

# “小さい” “狭い” がいいんです！



誰もが大きさや広さに憧れてきた。

だが、土地の有限性や枯渇する資源などを考えれば、  
広い空間を望むのは、すでに限界が来ているのではないだろうか。

一方、狭い空間はアイデアや工夫、目的次第で快適になる。

これからの地球に欠かせない狭小空間利用術。

これがいいんです！

取材・文／本間揚文、JQR 編集部  
撮影／長尾迪(飲食店)、神尾典行(軽自動車)、内藤サトル(住宅)  
イラスト／金子真理



“小さい” “狭い” がいいんです!



6.0㎡にカウンター席が3つだけ!?

## 客をもてなすために 狭い鮓屋の心意気

東京・新橋の「すし処 まさ」は驚くほど狭い鮓屋だ。だが、そこには店主の心のこもったもてなしが待っている。丁寧な仕込みで抜群の旨さ。5年先まで予約で埋まっている。

のれんをくぐり、戸を開けると、キューブのような空間が3席の椅子と白木のカウンター、その向こうの小さな収納棚で満たされている。初めて訪れたなら誰もが戸惑いを覚えるに違いない、1.82坪(6.02㎡)という狭く簡素な空間。それが「すし処まさ」の店舗である。

店主の鈴木優さんがこの店を開いて6年になる。それ以前に経営していた店は14坪(46.2㎡)と広く、カウンターとテーブル併せて30席だった。繁盛していたものの、鮓を握るのは自分だけ。注文が捌けず「料理が出るまで遅すぎる」と度々クレームを受けたという。

「お客様が一度に来てしまうと、どんなに早く握っても間に合いませんでした。細やかな仕事をするのは難しく、個々のお客様への気づかいはほど遠かったですね。始終“話しかけないで欲しいオーラ”が出ている状態です。周囲に嫌な雰囲気を感じさせてしまうこともしばしばで……。焦りがありました」

鈴木さんはいつしか、規模が小さくてもお客様に十分な配慮ができる店、納得いく仕事ができる店を開きたいと考えるようになった。

### 客の視線を考慮に入れ 狭い空間を生かす工夫

店内には限られたスペースを生かす工夫が仕込まれている。客の多くはカップルや夫婦で、予約は2+2=4名が多い。一方、置かれた椅子は3席。もう1席はどこにあるのかと尋ねると、椅子の下にもう一つ、木組みの椅子が逆さに収納されていた。1枚の引き戸だった玄関も、真ん中から左右両側へスライドできる4枚扉に作りかえた。これで一人がトイレに立つたびに、全員が腰を上げることもなくなった。

スペースを生かす工夫は狭さを克服するためだけではない、客への配慮という視点からも生まれている。

狭い店舗では、洗い物など客の目にふれさせたくないものが見えてしまう。ステンレス製の流し台や調理器具など光が反射するものは、客に

とって心地よいものではない。そこで流し台はまな板の下、冷蔵庫はさらにその下に設置するという3段構造とした。

もちろんどんなに工夫をしても狭い空間だ。必要なものが置けない不便さは残る。予約のための固定電話やFAXはない。日本料理では季節によって器や皿を変える。夏には涼しさを感じさせるガラス、冬にはぬくもりを感じさせる陶器が用いられるが、当然店には置ききれない。器は自宅のガレージに収納し、必要な時にその都度運んでいる。

### 小さな店は効率が良いが 一人でやり抜く覚悟が必要

狭いと言っても場所は新橋駅のすぐ隣。坪あたりの賃料は銀座の路面店並みと高いが、一方、定員は4人で1日2回転だけ。商売としては厳しいように感じられるが、狭小店ゆえ一人で切り盛りできるし、するしかない。そのため人件費が不要で、食材のロスもほとんどない。予約困難な人気店ということもあって

席に着いたお客の第一声は「思ったより狭くないね」が多い



目の前で鮓が握られる。その距離が近いため、店主の包丁さばきや手際、緊張感が伝わってくる。味わいはもちろん、鮓屋の醍醐味が楽しめる。

# 世界一狭い鮓屋で 最高のおもてなしを目指す



写真上から、ボタンエビと青柳の御造り。カツオの御造り。自慢の握り。蒸しアワビ。コースには、このほか昔ながらの製法でつくった豆腐、焼き物などが出る。

か、キャンセルは年に3~4件。仮にキャンセルがあっても少人数なのでリスクは最小限に抑えられる。「生ものは仕入れたその日に使い切らなければなりません。この点で、以前の店は苦労が多かったですね。雨が降ったり、スポーツの国際試合があるたびにキャンセルが出て魚が無駄になり、経営を圧迫したのです」鈴木さんは、今の小さな店は効率が良く、経営はむしろ安定したという。もちろん早朝の仕入れから仕込み、閉店後の掃除まですべてを一人でやらなければならない。大切な包丁研ぎは、もっぱら休みの日の行事となったが、それゆえに予算の範囲で質の高さを存分に追求できる。「忙しいですが、今は自分が納得いくまで仕事を追求できる。むしろ楽しいですね」

## 理想は 江戸時代の屋台鮓

納得がいく鮓を求めて、鈴木さんは素材をひとつひとつ吟味し厳選する。使う米は埼玉県産の関取米だ。江戸時代からの鮓用の品種だが、1本の稲から収穫できる量が少ないため作付面積が激減、消滅しかけていたが、栽培している農家を探し出した。関取米は米の白い部分にはモチモチ感があるが粘りが少なく、空気を含んで握ることができるため、シャリが口の中でほろける。この関取米に合わせる酢には色の濃い赤酢を使う。赤酢も江戸前の鮓に使われていたものだ。

「すべてを江戸の味に戻そうとは思いませんが、昔ながらの味は探求し

てみると意外に美味しいです」

江戸時代、鮓は屋台で出されており庶民のものだった。対して今の超高級店は豪華絢爛。お金を出せば出すほどよいネタが買え、美味しくなる。これは方向性として間違っていないと思う。しかし鮓のルーツをたどれば、必ずしもそれだけが正しいとは言えないのではないか。小さな屋台で美味しい鮓を誰もが味わえる値段で提供する。本来鮓屋にはこうした精神が生きていたはずだ。鈴木さんはそう考えている。

## 客と相對することで 初めてできるおもてなし

例えばもう少しだけ広い店を持ったとしたら？ 一方の客に向かって会話をすれば、その分もう一方の客には時間を割くことができない。客と相對し続けることができなければ、初めて来た客が疎外感を感じることもあるだろう。


「寿司屋は板前との会話も楽しみのひとつです。今の店であれば、お客様と限りなく1対1に近いかたちでコミュニケーションが取れます。会話はもちろん、この店ではすべての作業を相對するお客様のためにしているのが伝わるはずですよ。豪華さや超高級感はないかもしれませんが、しかし高級店では感じられない、別の贅沢感や楽しさは感じていただけるとは思いません」

顔を突き合わせて話し、精一杯もてなす。「すし処まさ」は、限られた空間でこそ可能になった、店主と客との濃密なひとときが楽しめる鮓屋なのだ。

目の前に整然と並んだネタ  
仕込みの素晴らしさが  
楽しい一夜を予感させる



毎朝の仕入れから仕込みまで手を抜かず、鮓を握りながらお客をもてなし、閉店後は店内を隅々まで掃除する。それをすべて一人で行うため、体調にも常に気を配っている。



日本には、狭い空間で  
会話を楽しむ文化がある  
その流れを汲む鮨屋が理想です

### すし処 まさ

住所：東京都港区新橋2-21-1  
新橋駅前ビル2号館B1  
TEL：080-5442-9866  
(2015年7月現在、予約受付休止中)  
定休日：日曜・祝日、年末年始。  
営業時間：18:00～、20:30～

“小さい” “狭い” がいいんです!



## 7.26㎡に七輪がふたつだけ！ 袖振り合い焼く肉で 誰もが仲良くなる不思議

東京・神田の立ち飲み焼き肉の店「六花界」は、狭い店内で肉を焼き日本酒を味わいながら、その日出会った人と仲良くなれる楽しい店である。

**神** 田駅改札横のガード下にある立ち飲み焼き肉の店「六花界」。店内は驚くほど狭いのだが、リーズナブルで美味しい焼き肉が食べられるとの評判で、夕刻から終電近くまで賑わう毎日だ。

アクセスが良いため2.2坪(7.26㎡)の店舗面積にも関わらず家賃は高い。果たして夕方からの客商売で勝算はあるのだろうか？ 15人足らずで一杯になるこの狭小スペースを選んだ理由を、オーナーの森田隼人さんが語る。

「当初から少人数で賄える店づくりを考えていました。広い店で大勢のお客様を相手にすればそれだけの従業員が必要で、コストがかかります。お客様が雨天時に濡れずに来店できる場所を探していたので、駅から30秒という立地は申し分ありません。何よりこだわったのが、狭い空間で見知らぬ人たちが一緒に肉を焼いて食べるスタイルです」

「六花界」が開業する前、この場所にあったのは金券ショップ。水道、

ガス、トイレがないので飲食店に選ぶ人はまずいない。しかし、建築設計士でもある森田さんにはこの空間を生かすノウハウがあった。足を踏み入れた瞬間、一人一人が立つ面積、消防法でクリアしなければならない点も含め、具体的なレイアウトが浮かんだという。その経験もあって、開店費用が200万円済んだ。

### その日のうちにすべて売り切る狭小店舗の営業ノウハウ

限られたスペースで営業する場合、どんなに工夫しても店に置ける備品・食品は限られる。不便さはないのだろうか。

「仕入れ先から運ばれてきた肉は捌いて滅菌処理し、その日のうちにすべて売り切ります。肉は鮮度が一番。残った肉は、次の日に出せたものではありません。肉は単なる商品ではなく、文字通り、肉はこの店の肉であり命なのです」

鮮度の落ちた肉を一切扱わなければ、肉専用の冷蔵庫は不要になる。小さな冷蔵庫はあるが、それは酒用

だ。その日本酒もストックは置かない。毎日6本を発注し、届いた日本酒を提供している。

「日本酒も一度栓を開けてしまえば味が落ちるので、肉同様に売り切ります。もしホッピーを扱うのであれば大量のホッピーの瓶を置くスペースが必要ですが、それはこの店では難しい」

森田さんは、空間が限られていることが、店の運営すべてに影響するという。「狭さ」というものは、ネガティブに捉えられがちだが、どうにもならない制約があるからこそ無駄が露呈し、露呈することで省けるもの。同時に、何とかしなければと、それまででない発想を得るチャンスにもなる。日本酒をメインに扱っているのも、スペースが限られていることと無関係ではない。それを逆手に、「六花界」のスタイルが生み出されたのだ。

### 利益以上のもの それを追い求める

「六花界」で仕入れる肉は、その時々



見知らぬ人たちが  
肉を焼き、焼かれつつうちに  
とても和むひと時



初めて会った人同士で楽しく乾杯。この瞬間から仲良しに。



イシワタリさん（都内在住の常連）  
美味しい焼き肉が食べられるので、週に3回は来ている。日本酒も一杯400円と嬉しい値段ですから。顔なじみの常連客も多く、見知らぬ人もすぐに打ち解ける雰囲気最高。毎回楽しく過ごしています。

の一番美味しい肉だ。特定の部位を除くと、A5もしくはA4ランク。なのに肉の盛り合わせは一人前1000円。ちなみに日本酒はすべて一杯400円で提供している。とてもリーズナブルだが、利益は出ているのだろうか。

「原価率は高く企業秘密ですが、話すと決まって驚かれますね（笑）。利益追求型のビジネスもいいですが、それより“楽しい”“面白い”でやっている側面があって、利益は店が続けていけるだけあればいいと考えています。それよりも、まずは信用です。何よりお客様が喜んでくれる

ことを優先し、信用してくれる先に、きっといいことが待っている（笑）。そう考えています」

こうした顧客重視の姿勢による満足度の高さが評判を呼び、客を引きつけ、5店舗と系列店を増やしたのだろう。

「系列店が成功しているのは、スタッフ一人一人が成長しているからです」

森田さんはこう謙遜するが、まさから始め、コンセプトを軌道に乗せ、それをビジネスに発展させるのは、並大抵のことではない。

### 狭い店が賑わい 楽しい店に変わる瞬間

手軽に美味しい日本酒と焼き肉が



店内には2つの七輪が置かれているだけ。肉を焼くのもままならないが、その不自由さが、集まった客たちのコミュニケーションを育む。

楽しめる「六花界」のもう一つの魅力、それは人と人が結びつく場であることだ。取材時にも、常連客が一見客に特定の部位の肉を上手に焼

くコツを教えていたが、これは普通に見られる光景だという。とかく人付き合いが苦手で見知りな都会の人間にあって、知らぬもの同士がいつの間にか仲良くなってしまふ。それは、どうしてなのだろうか。

「僕は見知らぬ人と話するのが得意で、人と人とを結びつけることに自信がありました。ぎゅうぎゅう詰め店内では、お客様のお皿を回してもらいますが、こうしたことが、コミュニケーションのきっかけになり、実は楽しいものなのです。店内でお客様同士が会話しながら一つの七輪で肉を焼く。これは小さな店だからこそできるシステムです。開業前から店のコンセプトはこれしかない、人と人のつながりしかない、と考えていました」

森田さんは気配りを絶やすことがない。客が来店すればタイミングを見はからい、その人のために乾杯の音頭をとる。それは、初めて来た客でも常連でも変わらない。

「お客様からスタッフまで、僕には人の輪が大切です。今日もたくさんのお客様に来店していただいています。が、顔を向き合わせて接客するこの店では、お客様が喜んで顔を目の前で見ることが出来ます。僕にとって、これこそこの店をやっている醍醐味なのです。確かに狭いかもしれませんが、しかしある意味では、他の広い店よりも大きいものがある。僕はそう思っています」

若い女性客から初老の男性まで、初めて出会った人同士が「お疲れさまです。カンパイ！」と、ともに笑顔で乾杯している。この狭小店の美味しいところは、実はこの瞬間なのかもしれない。



新鮮で上質な肉を焼き  
ポン酢で食べる  
日本酒との相性が抜群だ

人気の「肉の盛り合わせ」(1000円)。新鮮な赤身のほか、マルチョウ、トントロなどが並ぶ。



### 六花界

住所：東京都千代田区鍛冶町2丁目13-24  
TEL：03-3252-8644  
定休日：日曜・祝日  
営業時間：17:30~24:00

“小さい”“狭い”がいいんです!

ニッポンの小さなクルマ

# 軽(KEI)は 理想の自動車です

「軽四輪」は日本の自動車規格における一番小さな規格。  
車内は狭くて窮屈。その昔は安いだけ取り柄だった。  
しかし、近年この軽が大変身。工夫や技術で狭さの壁を乗り越えた  
小さな車は、とてもビッグな車になったのです。



田舎でも

都会でも



# 燃費良し！ 小回り良し！ 広さ良し！？ 軽自動車の乗り心地

軽自動車が人気だ。2015年5月の販売ランキングでは、上位10車種のうち軽自動車が7車種を占めた。小さな車が進化に進化を重ね、大きな人気を得た理由とは？

**国** 内の新車販売台数に占める軽自動車の割合が、昨年初めて4割を突破した。人気の高まりを考えると、近い将来、日本の車の半分は軽自動車になるだろう。以前は「小さくて窮屈」「安っぽい」というイメージがあった軽自動車だが、最近の車種は洗練され、車内も広々としているという。そこで実際に軽自動車をレンタルして、その人気の秘密を体験することにした。試乗に借りたのはダイハツのムーブで、レンタル料は6時間まで5832円だ。

キーを受け取り、まずは慎重に運転する。前後左右を確認すると、すぐに視界が広いことに気がつ

いた。小さな車体だからか、左右がよく見通せる。道がいつも以上に広く感じられ、込み入った車列でも、他車とのスペースに余裕があるのでストレスを感じない。回転半径がわずか4.4mで、狭い道での方向転換も楽勝だった。車体も820kgと軽く、そのためか思いの外、加速もいい。信号で止まる直前の車速が11Km/hになるとアイドリングストップが働くなど最新の機能を持ち、走行燃費は31Km/Lという省エネぶりだ。こうして見ると、人口が増え資源が枯渇し、環境に配慮しなければならない時代にあって、「小さい車」は、車のひとつのコンセプトなのである。

## 【日本の自動車規格】

| 分類         | 排気量       | 全長       | 全幅       | 高さ      |
|------------|-----------|----------|----------|---------|
| 軽自動車       | 660cc 未満  | 3.4m 以下  | 1.48m 以下 | 2.0m 以下 |
| 小型車(5ナンバー) | 2000cc 未満 | 4.7m 以下  | 1.7m 以下  | 2.0m 以下 |
| 普通車(3ナンバー) | 2000cc 以上 | 12.0m 以下 | 2.5m 以下  | 3.8m 以下 |

コンパクトな車内からの視界は広く、周囲を良く見渡せる



## 新車販売ランキング 2015年1~6月

|     |             |   |
|-----|-------------|---|
| 1位  | アクア (トヨタ)   |   |
| 2位  | N-BOX (ホンダ) | 軽 |
| 3位  | タント (ダイハツ)  | 軽 |
| 4位  | デイズ (日産)    | 軽 |
| 5位  | ムーブ (ダイハツ)  | 軽 |
| 6位  | プリウス (トヨタ)  |   |
| 7位  | フィット (ホンダ)  |   |
| 8位  | アルト (スズキ)   | 軽 |
| 9位  | ワゴンR (スズキ)  | 軽 |
| 10位 | N-WGN (ホンダ) | 軽 |

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車協会連合会の発表による。

# 見た目は小さいけれど、中は広々！ 軽の快適さを生み出す技術とは

課せられた「小さい」規格の中で、より進化した軽自動車作りに邁進するスズキ株式会社。開発担当者に、快適さを生み出すアイデアや技術を聞いた。

**4** 月の中旬、浜松にあるスズキ本社へ行き、人気の軽自動車「エブリワゴン」に試乗した。まず驚いたのは、その車内の広さだった。天井が高いばかりでない。足元も広々して窮屈さを感じさせない。

「特に後ろの座席はリッターカー(排気量1000ccの車)よりもずっと広く、ゆったりしています」

こう話すのは、チーフエンジニアの水嶋雅彦さん。軽自動車は小さい規格だからと言って普通車を単純にダウンサイジングするのではなく、一から軽自動車として設計するという。普通車との大きな違いは、まずボンネットの短さにある。

「エブリワゴンは軽自動車のサイズの中で車内空間を広くとるために、ボンネットを短くしてエンジンを床下に格納しています。また、タイヤも車内を狭くする要因のひとつですから、車体の前後へ押し出すように設計しています。そのため、ホイールベース(前輪と後輪の間)が普通車よりも格段に長くなりました」(水嶋さん)

広い空間を求めて試行錯誤した結果、ボンネットが短くなり、ボンネットが短くなったことで車間距離を把握しやすくなった。また、タイヤが四隅にあることで回転半径が小さくなり、狭い道でも運転しやすいというメリットも生まれた。運転が得意でない人でも軽自動車が運転しやすいのはこのためである。

## 車内空間を広く見せるため デザインもひと工夫

空間を少しでも広げるため、スベ



話を聞いた、エブリワゴン開発担当者のふたり

水嶋雅彦さん

「大きな自動車にはない面白さや遊び心を軽自動車に取り入れたいですね。休日、趣味のためのツールのひとつになればと思います」

入手由貴さん

「長距離を運転していても窮屈さがなく、疲れず、安心して乗れる、使い勝手のいい軽自動車をデザインしていきたいです」

ースは1ミリも無駄にできないという。つねに数字との闘いで、車の設計はパズルのようなものと水嶋さんは話す。ちなみに今年、9年6ヵ月ぶりにリニューアルしたエブリワゴンは前モデルに対して、タイヤを3センチ、前席のシートを4.5センチ前に持って行くことで広さを確保した。

車内空間をより広く見せるための

工夫として、横基調のラインを強調するようなデザインや、圧迫感を感じにくい丸みのある断面を取り入れていると話するのは、インテリアデザイン担当の入手由貴さんだ。収納はフタをつける場所を取るの、あえて見せる収納とし、デザイン性と実用性を兼ね備えた。乗る人にとって使いやすいデザインを考えるために市場を回り、ユーザーの実際の使





**スズキ エブリイワゴン**

室内長 2240mm・室内幅 1355mm・室内高 1420mmとトップクラスの室内サイズを誇る。メーカー希望小売価格 ¥1,425,600～(消費税込み)

い方を見たり、話を聞いて参考にしたいという。

「例えばキャンプが好きな方だと、たくさんの荷物をうまく積み込むために自分で車に穴を開けてフックを取り付けたり、棚を作ったりしています。とくに商用車として使っている方は、多くの荷物を整理するために工夫をしている。そんな使い方をみたので、あらかじめ、ねじ穴や棚を取り付ける溝をつければ、もっと使いやすくなるのではないかと思います、今回取り入れました。このねじ穴はとても好評です」(入手さん)

軽自動車は移動手段ばかりでなく、趣味を楽しむためにも使われるようになってきた。また、多種多様なデザインも人気の理由だ。

**空間を広くしつつ  
安全性を確保する**

空間を広げるために座席の位置を前にし、壁(鉄板)を薄くするが、気になるのが安全性の問題である。「骨格を丈夫にしたり、より強度の強い鉄板を使用することで、衝突安全基準をクリアしています。昔は試作品を作って実際に強度を試し、足りない強度を補強していくという方法をとっていました。しかし、最近はコンピュータ技術の進歩によって、さまざまなシミュレーション解析ができるようになり、試作品の精度が上がりました。とはいえ、板厚を薄くしながら強度を高めたり、燃費をよくするために軽くするという相反する作業はひと苦労です」(水嶋さん)

そもそも、軽自動車の規格が変わってひとまわり大きくなったのも、

厳しくなった安全性を確保するためである。しかし、大きくなった寸法すべてを安全性に費やすのではなく、安全性を確保したうえで空間を広げているのだ。

「さまざまな制約があるからこそ、いろんな工夫がされている。それが軽自動車だと思います」

と水嶋さん。無理難題を受け止めそれを乗り越えた結果、軽自動車は、多くの人々に受け入れられたのである。日本の進化し続ける小さな車から目が離せない。



今回、新たに付けたメーター横のインパネアッパーポケット。鍵やミントなどの小物を入れておくと、すぐに取り出せて便利。

車内空間を広げるために、薄くても強度のある鉄板を使用。安全基準をきちんとクリア。



車高が高く、乗り降りもラクラク。大人の男性も窮屈さを感じず座れるほど、足元も広い。



ボードやネットなどのアクセサリを取り付けるための穴も標準装備。荷室が使いやすい。



運転席上のオーバーヘッドシェルフ。A4ファイルや薄型のティッシュボックスなど収納できる。すぐに取り出せるので使いやすい。  
※エブリイの装備

**軽自動車の  
車内は狭いと思うけど  
意外と積めるんです**

軽自動車といえども、商用車として使うには荷物がたくさん積めることが重要だ。そこでエブリイのリニューアルにあたっては、ダンボール箱が何個積めるかにこだわったという。その結果、ミカン箱なら69箱、ビールケースなら40ケース、ダンボール(小)なら46個も積める荷室を確保した。幅が狭い道路に駐めて荷物の出し入れをしても邪魔になりにくい軽自動車は、荷物ととても相性がいいのである。



27インチの自転車も倒すことなく余裕で積み込める。



中サイズのダンボール(319×669×432mm)なら17箱入る。大きな荷物や絨毯のような長尺物もおまかせ。



**スズキ エブリイ**

荷室長(2名乗車時)1910mm・荷室幅1385mm・荷室高1240mmとトップクラスの荷室サイズを誇る。助手席を倒すと床面長は2640mmに。メーカー希望小売価格¥923,400～(消費税込み)

# 一度乗ったらもう手放せない！ We ♥ 軽自動車

都会で田舎で、プライベートにもビジネスにも、人気の軽自動車。  
軽自動車を愛してやまない4人に、その魅力を聞きました。



スタジオ勤務  
**高田かおりさん**  
軽自動車歴7年

どこがお気に入りですか？

**視界が広く小回りがきき  
運転しやすいところ**

ライフワークとして、軽井沢の四季を撮り続けている高田かおりさん。愛車はスズキのジムニーだ。大学の卒業制作の撮影で軽井沢に通うため、免許取得と同時に購入した。軽井沢の住人の間で使用率が高く、試しに乗ってみると小回りがきく。急な坂道でも力強く走れるから、運転初心者の自分でも安全に乗りこなせると思った。「ジムニーは視界が広く、山の景色を楽しみながら運転できるのがいいですね」と高田さん。週末にはカメラを携え、都内から軽井沢へのドライブを楽しんでいる。

(愛車)スズキ ジムニー



全長 3395mm 全幅 1475mm 全高 1680mm  
車両重量 980Kg 最小回転半径 4.8m



酒販店オーナー  
**西村利彦さん**  
軽自動車歴 18年

どこがお気に入りですか？

**フットワークが良いので  
効率良く配達できる**

大量の商品はトラックで運ぶが、小口の配達にはもっぱら軽自動車を使っているという西村さんは酒屋さん。「住宅地は突然道が狭くなったり、駐車スペースが限られたりしますが、軽は場所を取らず、小回りがきくので助かります」と言う。また、「意外と荷物が積めるんですよ。ビールなら20ケース（1ケースに大瓶20本）は大丈夫」だそうだ。燃費もいいし、荷物を積んだ時にも走りを損なわないパワーもあるからと、軽は手放せない様子。現在のホンダ・アクティは5代目の軽になる。

(愛車)ホンダ アクティ



全長 3395mm 全幅 1475mm 全高 1880mm  
車両重量 960Kg 最小回転半径 4.5m



フルート奏者  
**深津純子さん**  
軽自動車歴5年

どこがお気に入りですか？

**近道が狭くても気にせず  
スイスイ走れる**

東京を拠点に活動し、週末はスタジオのある千葉の館山で過ごす深津純子さん。「東京からは電車やバスで来て、着いたら近所を出歩く時にこの車を使うの。それが一番エコでしょ？」と、愛車のダイハツのエッセに「ぴょん吉」と名を付けたと笑う。館山市の親善大使を務め、音楽仲間とのライブ活動やコミュニティーガーデンを運営する。「ガーデニングの資材を運ぶのにも便利だし、近道となると農道や狭い路地だから、軽じゃないと通れないのよ」。大忙しの週末「ぴょん吉」は欠かせない。

(愛車)ダイハツ エッセ カスタム



全長 3395mm 全幅 1475mm 全高 1470mm  
車両重量 780Kg 最小回転半径 4.4m  
※生産販売終了



彫金作家  
**出口 洋さん**  
軽自動車歴6年

どこがお気に入りですか？

**荷物をたくさん積めて  
しかも出し入れしやすい**

品の搬入や搬出、仕事や日用品の買い出し、サーフィンにと、軽のワンボックスをフル活用している出口洋さん。10年前に実家のある南房総に帰り、彫金作家の道を歩み始めた。何処へ行くのにも手軽に使い、しかも税金や維持費もかからない。これ以上便利な車はないと、軽自動車を「世界に誇る日本の軽」と言ってはばからない。「田舎暮らしでは、軽トラックは言わば馬の代わり。なので、今でも一家に一台必ずある」と出口さん。軽は生活に欠かせない、生活の相棒なのである。

(愛車)スズキ エブリイ



全長 3395mm 全幅 1475mm 全高 1815mm  
車両重量 970Kg 最小回転半径 4.5m

“小さい” “狭い” がいいんです!



# 「遠くて広い」より「近くて狭い」が正解! 狭くても快適な 我が家を建てるまで

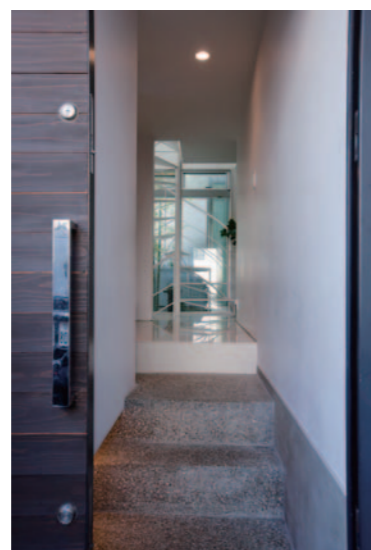
郊外に大きな家を建てても毎日2時間30分の通勤はつらい。一方都心は地価が高く、狭い土地では納得のいく家を建てられない。そう思いがちだが、都心のわずか18坪(59.49㎡)の土地にKさん夫妻は理想の家を建てた。いかにして夢の家を手に入れたのだろうか。

**渋谷** 谷駅から歩いて10分ほどの閑静な高級住宅地に、Kさん夫妻は家を建てた。それはとても小さな家だが、玄関を入れば見通しがよく、狭さを感じさせない。どのフロアもコンパクトで上質なつくり。広くゆとりがある家より、格段に住みやすそうだ。

家が欲しいと思った頃、Kさんは郊外に広い家を持つか、それとも都心の狭い家で窮屈に暮らすか悩んだという。

「私はワーカホリックで、遅い時間に帰宅していました。それでも妻は毎日待っていてくれます。職場から遠くに住めば一層帰りが遅くなり、深夜を回るのには目に見えている。これ以上妻に負担をかけたくないので、住むなら都心と思っていたのです。できるなら、新しい文化が生まれる街、渋谷近辺に家を持ちたい。でも、土地の値段を考えると、それは夢のまた夢。実現するとはつゆほども思っていないませんでした」

そんな夫妻に思いがけない転機が2009年に訪れた。知人に渋谷の土地の所有者を紹介してもらい、売却交渉の機会を得たのである。「ここでどんな生活がしたいのか、土地の所有者に熱く話しました。」



玄関に立つと中庭までの空間が一直線に見通せる。そのため狭さを感じない。

すると『持っている土地が役に立つのなら』と、売却を決意してくれたのです」

旗竿型という変形地でわずか18坪。そのため購入価格は安く抑えられた。Kさん夫妻は、都心の高級住宅街に土地を手に入れ夢の扉を開けたのだった。

## 一瞬で萎んだ夢が また膨らんだ出会い

「土地の購入が決まってから、二人で建てる家のイメージを話し合いました。日常から隔絶した、リゾート感覚がある空間。それでいて機能的な家がいいねと」

そのイメージをKさんがコンセプトシートにまとめ、インテリアデザイナーの奥さんが図面を引いた。それを携え二人はハウスメーカーを訪ねたが、そこで待っていたのは失望ばかりだったと言う。「担当者に私たちの希望を話すと、顔を曇らせ『無理です』と、『これじゃ儲からないので、うちではやれません』と言われてしまって……」

代わりにハウスメーカーは自社プランを提示。仕方なく、二人はそのプランを見ながら細かな要望

たとえ小さくても  
我が家を持つことは  
最高の幸せ



白く透ける軽やかならせん階段を通し、窓から柔らかな光が半地下に降りそそぐ(写真上)。中庭で伸びる竹。中庭の外壁にはルーバーが使われ、外部から光が射し込むが、建物の外から中を覗くことはできない(写真中)。子ども部屋に続くハンモックスペースは、娘さんのお気に入り(写真下)。

Kさん一家は夫妻に一人娘、そして大きな猫2匹の所帯。三人が立っている場所が駐車スペース。

を伝えるものの、ハウスメーカーは追加オプションを提示するだけだった。

土地が手に入り膨らんだ夢が、一瞬で萎んでしまったように感じられた。だが、Kさん夫妻は、それなら自分たちで建てようと、建築家を探すことにしたのである。そして、狭小住宅を数多く手がけている建築家、杉浦伝宗さんを探し出し、依頼の相談に出かけたのだった。

「コンセプトシートと図面を杉浦さんに手渡すと、『こんなに具体的に考えている人は初めてだ』と喜んでくれました。旗竿型の土地は珍しいらしく、杉浦さんの建築家としての情熱を刺激したようです。『ぜひあなたと仕事がしたい』と言われた時には、飛び上がるほど嬉しかったですね」

### 夫妻の夢を叶えた 『ちっちゃな家の空間3原則』

Kさん夫妻の家には「抜ける、透ける、兼ねる」という、杉浦さん考案の『ちっちゃな家の空間3原則』が存分に発揮されている。

まず、1階の玄関とLDKの間には仕切りがない。この「抜ける」で空間の広さを最大限引き出した。玄関は直接LDKが見えないように配置され、玄関口の来客にリビングでくつろぐ姿を見られる心配もない。リビングはダイニングキッチンで「兼ねる」が、半透明の戸でキッチンが隠せるので、役割を瞬時に切り変えることができる。また、リビングに通した客に水回りを見せずにも済む。このLDKに面して中庭が置かれ、それがガラスで囲まれ「透ける」ため空間が広く感じられる。そこには採光や換気など「抜ける」機能も兼ねている。

階下はKさんの書斎と子供部屋、それにハンモックが吊された遊び場、収納スペースとなっている。

「1階と2階だけでは延べ床面積が十分ではありません。しかしこの地域は建物の高さに制限があり、3階建てにはできなかったのです。杉浦さんに相談したところ、1.4mまでの半地下であれば法的にも問題がなく、固定資産税も安くなると」

この半地下には、階上の中庭や

小窓から光が射し込み、息苦しさがない。しかもコンクリートの壁が防音効果を発揮し、ピアノを演奏しても近隣から苦情がくることもないという。収納スペースも広く、サーフボードやスキー板といった大物も置くことができる。

「『都心だから都市の機能を使えばいい。駐車場のスペースを別な用途に使えば、さらに快適な家になる』と言われましたが、ワガママ言って駐車場もつくってもらいました」

2階に上がると、そこには柔らかな光が射し込むバスがある。まさにリゾート感覚のある開放的な空間だ。

住宅地に半露天風呂的なバスをつくる場合、プライバシーが気になるが、杉浦さんはここでも「透ける」工夫、外から中が見えないルーバーを用いて解決した。

### 自然を感じる 心地良い家

どの部屋も非常に明るく、常に風が吹き抜けていた。二人の寝室はこの2階にあるが、都心にも関わらず、中庭で伸びた竹に鳥が訪れ、二人は毎朝そのさえずりと陽の光で目を覚ますという。光、風、鳥のさえずり……。自然の力がこの家の暮らしを一層心地よいものにしてている。これほど完成度の高い家だと、思わず予算が気になってしまうのだが。

「当初相談した額で収まりました。私たちの理想が、ここまで実現できるとは思っていなかったので、家に入った時にはとても感動しました」

最後に、お嬢さんのみろくさんに、我が家の感想を聞いた。

「中庭でバーベキューやオイルフォンデュをして楽しんでいます。中庭では、気分転換に勉強もします。とても気持ちの良い毎日を猫たちと一緒に過ごしています。私はこのお家が大好きです」

光に包まれ  
音楽が流れる優雅なバスで  
リラックスした時間を過ごす

ルーバーと天窗で半露天風呂的な空間を実現。白壁と上質なタイルに囲まれたバスに浸かると、贅沢な時間が過ぎる。



半透明の仕切りでキッチンを見せず、かつ奥行きを感じさせる。写真には映っていないが、右側の壁面には大型のスクリーン、左側にはソファとサウンドシステムを設置。



“小さい” “狭い” がいいんです!



依頼人の夢を諦めさせない建築家!

# 小さな土地に 幸せな家を設計する

『ちっちゃな家の空間3原則』を考案し、  
依頼人の理想の家を実現する、建築家の杉浦伝宗さん。  
狭いという都会の制約のなかで、  
機能的で暮らしやすい家を生み出している。

**今**から18年前のこと。建築家の杉浦伝宗さんのもとに舞い込んだ依頼は、わずか31.2㎡、9.4坪ほどの土地に住宅を建てるというものだった。そのような狭い土地に建つ家など考えたことがなかった杉浦さんは、これを一つの課題として取り組むことにしたのである。

「限られたスペースを快適な空間にするという難しいテーマでした。考え抜いて出した答えが、『透ける、抜ける、兼ねる』という、私が『ちっちゃな家の空間3原則』と呼ぶものです。この3原則を活用すれば、限られた土地でも快適な家をつくることができます」

その3原則の一つ「透ける」とは、内部と外部の双方からの見え方を調整すること。空間を仕切る際に透ける素材を使い、人の視線や風・光の通りを確保するのである。

「メッシュ状の金属板、エキスパンドメタルを使い仕切りをつくると、家の内側からは外の風景を見ること

ができますが、家の外側からは中を見ることができません。光と風が部屋を抜け、視線の先にある外の奥行を見渡せます。開放的な空間が得られ、かつ居住者のプライバシーを保つことができます」

2つ目の原則「抜ける」とは、壁や床の一部を取り除き、空間を拡大すること。狭小住宅では絶対的な面積が狭いため3階建てが多いが、たとえばその階段に網状の素材を使う。「網状の階段であれば、夏に上の階で窓を開けると、煙突効果で風が下から上に吹き抜けとても快適です。また、天窗から差し込む光が下の階を照らし、室内が明るくなります」

3つ目の原則「兼ねる」とは、庭と玄関を兼ねるなど、一つのスペースに複数の機能を持たせること。「敷地面積のうち、通常住宅が占めるスペースは60%。それ以外の空間は40%です。玄関を住居内に置けば、それだけ狭くなりますが、庭を玄関に利用することで土地を有効に活用できます。家の外と中を一体

化させることは、小さな家の命です」  
「空間3原則」は互いに作用しながら、狭さという制約の中に広い空間を出現させるのである。

## 日本の住文化の知恵を 現代に生かす

この『ちっちゃな家の空間3原則』は、そもそも日本の住まいに見られたものと、杉浦さんは言う。

「たとえば、日本の民家には必ず縁側がありました。来客とともに縁側に腰掛け、庭の木を眺めながら会話を楽しんだものです。昔の日本の住宅は、家の中と外が一体化していたのですね」

杉浦さんは設計する際、狭いスペースでも1階に必ず木を植える。空間に奥行きを出すことが目的だが、家の外、つまり自然を楽しめるという狙いもある。

「風が吹けば葉がカサコソと音を立て、日が昇るにつれて木の影も移動します。落葉樹を植えるようにしているので、春には芽が吹き、夏に花

狭い空間づくりの手本は茶室  
多くを茶室に学んでいます



アーツ&クラフツ建築研究所を率いる杉浦伝宗さん。第一人者として、依頼者の7割が小さな家だという。

# 狭さは費用を抑える 住宅取得の最大の武器

が咲き、秋になれば実がなって、冬が来ると葉が散る。こうして四季を感じることができる。自然と共生するという、まさに日本の文化ですね」

## 狭小住宅が増加した背景と平均的な予算

ところで、日本の住宅は必ずしも小さなものが多かったわけではない。杉浦さんによると、1990年代以降、狭小住宅の需要が増大したことには、いくつかの社会的な要因があるという。震災によるマンション不安からの一戸建て志向、少子化など家族構成の変化にともなう大きな住宅の必要性の低下、ライフスタイルの多様化とともに増加した個性的な住宅への需要、女性の社会進出と共働き世帯の都心志向、などだ。

「長い間、日本では住宅はある程度の広さ、最低でも30坪程度の広さがなければ成り立たないと考えられてきました。ところが、工夫することで小さな家でも十分快適に暮らせることがわかってきたのです」

アーツ&クラフツ建築研究所を訪ねる依頼者には30代後半～40代の夫婦が多く、ローンの平均は5500万円ほど。この金額で都心に土地を買って家を建てるとなれば、土地の面積は10数坪にならざるを得ない。杉浦さんが設計してきた狭小住宅の土地面積の平均は約17



「空間の快適さには、広さのみならず、光、風、気温、香り、材料の質感など、さまざまな要素が絡んでいます」と語る杉浦さん。

坪、延べ床面積は約27坪である。建物の平均坪単価は89万円\*前後で、工事費用は約2400万円\*。しかしこれはあくまで過去のデータの平均だ。近年は工事費も土地の価格も上がっている。

「今であれば、小さな家なら建物の工事費は約3000万円。それに消費税、設計費が加算される程度\*\*でしょうか。それに土地代が必要になります。都心の土地は高いですが、

変形した土地であれば比較的安く買うことができますし、そうした土地に工夫して家を建てると、自然と面白い家ができていきます」

## 小さな家に住むのは損か得か

小さな家は土地代と建築費を安く抑えられる。コンパクトゆえ、冷暖房などのエネルギー効率もいいし、掃除などの手入れも簡単だ。小さな家に住むメリット・デメリットを、

杉浦さんはどのように捉えているのだろうか。

「大勢の人が入ることをイメージすれば、小さな家はもちろん狭いですよ。しかし家は大きければよい、あるいは小さければよいというものはありません。大切なのは、その家で何をやるのかであり、ライフスタイルと用途次第だと思います。たとえば郊外の家と都市生活の家とでは、必要とされる機能がまったく違う。都市生活では必ずしも客を自宅に招く必要はなく、近隣に気に入ったレストランがあれば、そこで来客をもてなすこともできる。都市生活の場合、都市の機能を使えるからです。従って、家は家族が楽しむことを中心に設計すればいいことになります」

杉浦さんが設計した小さな家に住む家族に話を聞くと、できあがった建物は面積が限られているにも関わらず、満足度が非常に高いことがわかる。

「依頼人の家族が“住んで楽しい”と思える住宅ができた時、喜んで顔を見た時、この仕事をしていて本当によかったと思いますね」

たとえ土地が狭くても、諦めてはいけない。相談する相手次第で快適な家を実現するのだから。

\* いずれも税別

\*\* 金額は2015年5月取材時

狭いというハードルが  
創作意欲を刺激し  
アイデアを絞る毎日



港区北青山のオフィス内。この18年で、数多くの狭小住宅の設計を担当してきた。ちなみにこれまで手がけた狭小住宅の最少敷地面積は7坪（最少建坪は4.3坪）だという。